

# 名古屋市社会福祉協議会 高齢者・共生型サロン実態把握調査【概要版】

## (1) 調査の目的

名古屋市社会福祉協議会では、「ふれあい・いきいきサロン（以下、サロン）」の現状及び課題等について、サロン運営ボランティアの代表者及び参加者を対象に、サロン活動上での課題やサロン参加後の変化、支援要望等を把握するとともに、今後、サロン代表者が安心してサロン活動ができ、また参加者も意欲的にサロンに参加できるような地域社会づくりに役立てることを目的として、アンケート調査及び統計データの整理を実施しました。

## (2) 調査の概要

- 調査対象：名古屋市内のふれあい・いきいきサロン主催者及び参加者
- 調査方法：郵送配布・郵送回収（令和3年10月26日発送）
- 調査時期：令和3年11月～12月
- 配布数：400票（代表者）2,000票（参加者）
- 回収数：322票（代表者）1,460票（参加者）
- 有効回収数：1,782票 ○有効回収率：74.2%

## 1 ふれあい・いきいきサロンの区別設置把握数

市内のふれあい・いきいきサロンは令和3年12月現在で1,937か所あります。区別で見ると緑区が最も多く217か所、次いで南区が154か所、港区で153か所あります。また、各種事業別で見ると、共生型は南区で最も多く60か所、次いで緑区が51か所、天白区で42か所となっており、高齢者では緑区が最も多く124か所、次いで港区が97か所、西区が86か所、障がい者では天白区で最も多く6か所、次いで緑区で3か所となっています。子育てサロンでは、緑区が最も多くそれぞれ39か所、次いで南区で35か所、中川区と名東区でそれぞれ30か所となっています。

高齢者1,000人あたりの高齢者・共生型サロン数では、東区、中区、昭和区、熱田区、港区、緑区の6区が、それぞれ3を上回っています。千種区と天白区は2を割り込んでいます。

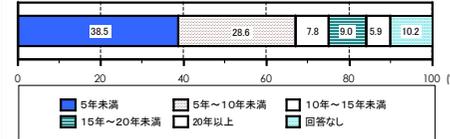
【ふれあい・いきいきサロン区別設置把握数】

	共生型	高齢者	障がい者	子育てサロン	合計	高齢者1,000人あたりの高齢者・共生型サロン数
千種	26	48	2	18	94	1.83
東	30	32	1	18	81	3.32
北	32	72	2	29	135	2.20
西	16	86	0	27	129	2.75
中村	28	81	0	29	138	2.91
中	18	38	1	14	71	3.00
昭和	16	61	0	27	104	3.03
瑞穂	41	24	2	14	81	2.21
熱田	30	36	1	14	81	3.70
中川	39	79	1	30	149	2.11
港	27	97	1	28	153	3.00
南	60	59	0	35	154	2.95
守山	35	69	1	25	130	2.25
緑	51	124	3	39	217	3.02
名東	8	79	1	30	118	2.29
天白	42	31	6	23	102	1.90
計	499	1016	22	400	1937	2.57

※令和3年12月現在「高齢者千人あたり的高齢者・共生型サロン数」算出にあたり使用した65歳以上人口は国勢調査確定値 令和2年10月時点の数値

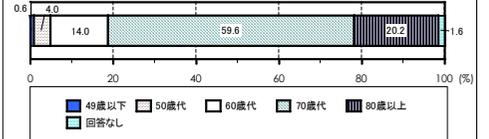
## 2 アンケートから見たサロン概要

【サロンの開始年月日】 n=322



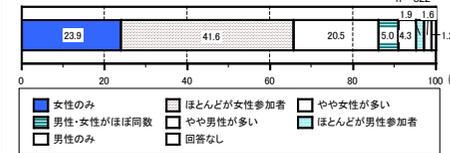
■「5年未満」が最も多く、次いで「5年～10年未満」が多くなっています。

【サロン代表者の年齢】 n=322



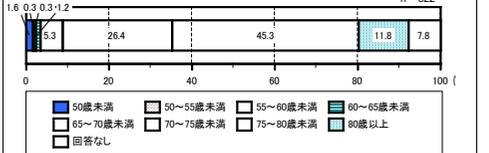
■70歳代以上がおおよそ8割を占め、主に高齢者がサロン代表者となっています。

【参加者の男女比】 n=322



■女性のみ・ほとんど女性が65.5%を占めるのに対して、男性のみ・ほとんど男性はわずか3.5%とかなり低い状況です。

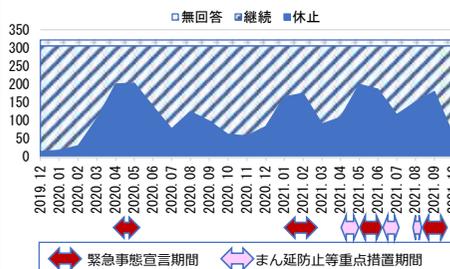
【参加者の平均年齢】 n=322



■「75歳以上80歳未満」が最も多く、次いで「70歳以上75歳未満」が多くなっています。

## 3 新型コロナウイルス感染症拡大によるサロン活動への影響

【感染拡大後の運営状況】



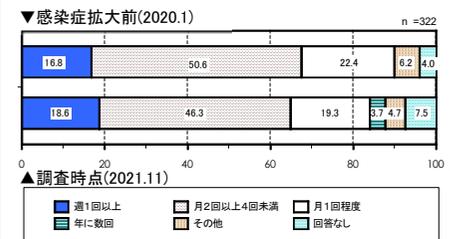
■宣言や措置が施された期間は概ね6割が活動を休止しているほか、措置期間以外にも、感染症の拡大状況に応じて活動を休止していたサロンがあります。

【サロン休止中の代替活動】 n=256 (%)



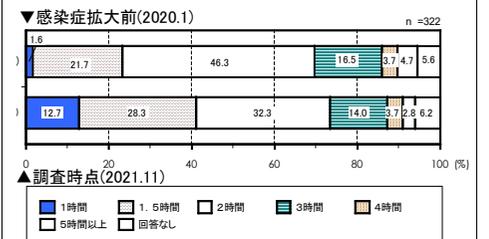
■中止期間があったサロン256件については、「特に代替の活動は行っていない」が4割を占め、最も高くなっています。代替活動を行ったサロンでは、主に非接触の活動が取られています。

【サロンの開催頻度】



■感染拡大前と比較すると、月1回以上開催するサロンが全体のおおよそ8割となっており、開催頻度は減少傾向にあります。

【サロン1回あたりの所要時間】



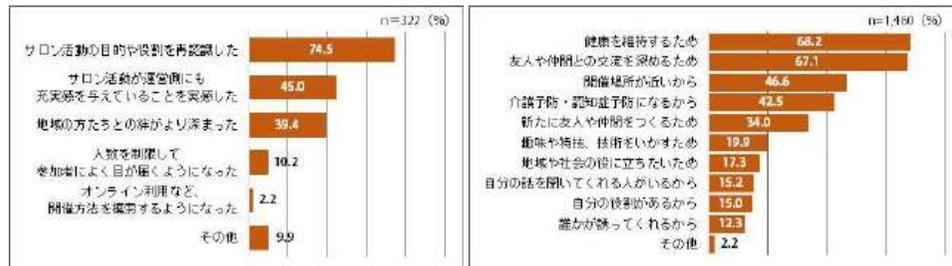
■感染拡大前と比較すると、1.5時間や1時間の開催の割合が増え、サロン1回あたりの所要時間が短縮傾向にあります。

## 4 ソロン活動を実施してよかったこと、参加する理由

感染症の拡大を経験して、サロン活動を実施してよかったことは、「サロン活動の目的や役割を再認識した」「サロン活動が運営側にも充実感を与えていることを実感した」「地域の方たちとの絆がより深まった」とであると、多くの代表者が答えています。また、参加者は「健康を維持するため」「友人や仲間との交流を深めるため」がサロンに参加する主な理由として挙げられています。

【サロン代表者 実施してよかったこと】

【サロン参加者 サロンに参加する理由】



## 5 ソロンが与える効果・サロンに参加することの効果

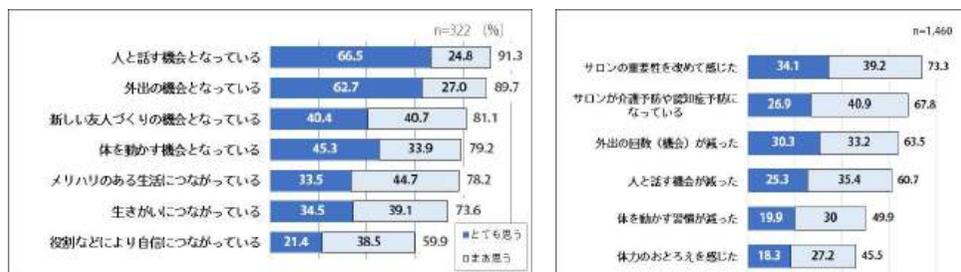
代表者に聞いた、サロン活動が参加者に与える効果として「人と話す機会が増えた」「外出の機会となっている」「新しい友人作りの機会となっている」と答え、サロンは地域におけるコミュニケーションの場としての効果が大変高いと評価されています。

また、感染症拡大によりサロンが休止となっていた間に参加者が感じたこととして、「サロンの重要性を改めて感じた」「サロンは介護予防や認知症予防になっている」「外出の機会が減った」「人と話す機会が減った」と続いており、サロンへの参加が健康を維持したり、生活に張りを生んでいたことを改めて実感する結果となっていることに加え、その内容は代表者がサロンの効果として感じていることと共通していることが伺えます。

サロンに対する満足度を見ると、参加者の9割以上が満足しています。

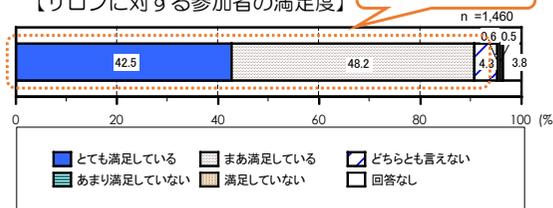
【代表者が感じている「参加者への効果」】

【休止となっていた間に参加者が感じたこと】



【サロンに対する参加者の満足度】

満足度 90.7%!



## 6 感染症拡大下でのサロン運営の課題と社協への期待

(1) サロンの現状

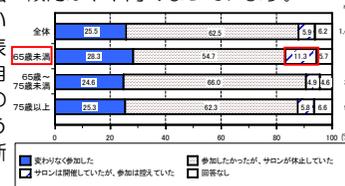
●サロン設置数は伸びが鈍化。●サロン活動開催の可否はボランティアや参加者の意見等から判断

サロン設置数は過去5年で増えていますが、感染症拡大のタイミングに伴い伸びが鈍化しており、令和元年から令和3年にかけては高齢者対象のサロンは微減の状態となっています。

また、サロン代表者やボランティアの年齢は共通して70歳以上が半数を占めており、担い手の高齢化や、男性の担い手の少なさが問題視されています。

●感染症の拡大によって、サロンへの参加に影響

「参加したかったがサロンが休止していた」が最も多く、65歳未満では、サロンの参加を控える傾向がやや高くなっています。



(2) サロンの課題

●実施に向けたアドバイスや、他サロンの工夫等の情報提供

開催の判断基準や感染予防の基準等、活動実施に向けた注意点のほか、他サロンの活動状況や取り組みの工夫等の情報提供が求められています。

【代表者：感染症拡大を経て必要だと感じる支援】



●コロナ禍でのサロン活動の継続に向けた新たな取り組みの実施

コロナ禍においてもサロン参加者の参加意向が高いことから、コロナ禍での活動継続に向けた屋外活動や、オンラインの導入に向けた、きめ細やかな支援が必要です。

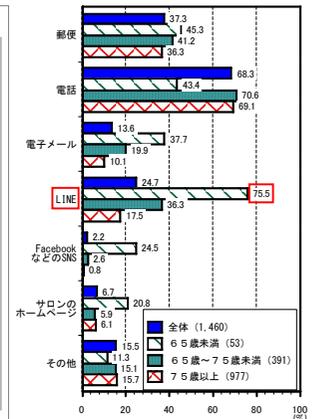
【参加者：今後のサロン活動に必要な事】



●参加者・担い手の確保に向けたサロン活動の周知

未参加者層への呼びかけのため、情報提供方法の充実が必要です。65歳未満は情報入手にLINEやメールを活用する割合が高く、オンラインの活用が今後重要となります。

【参加者：利用可能な連絡手段】



(3) 社会福祉協議会に求められる支援

- 屋外活動やオンラインの導入に向けた支援：コロナ禍におけるサロン活動の継続に向け、地域資源を活かした屋外活動メニューの提案、オンライン導入のハードルを低くするためのきめ細やかな支援
- 効果的な情報提供方法の充実：未参加者層への呼びかけ、各サロンの活動の工夫等、サロン同士の情報共有の橋渡し、他世代の参加・交流
- サロン活動の継続的な把握：実態に即した支援実施に向けた運営者・参加者双方のニーズの把握

発行日：令和4年3月

発行：社会福祉法人  
名古屋市社会福祉協議会